お知らせ

平和祈念写真展　《未来に伝える昭和》

　多くの家々が焼かれ、そこに住む人々が逃げ惑った「大森・蒲田地区の空襲」の日から今年の４月で 79 年目の春となりました。
　戦前から、戦後を郷土博物館や昭和館、開桜小学校所蔵の写真と貴重な資料で振り返ります。そして平和な今だからこそ「共に笑えるという幸せ」を、大田区出身の落語家三遊亭ときん師匠がお届けします。

〇日　時　４月 12 日（金）～ 14 日（日）
　　10：00 ～ 16：00
〇会　場　こらぼ大森多目的室
〇内　容
　①展示　戦前・戦後の写真と資料の展示
　②平和寄席　三遊亭ときん師匠
　（生まれも育ちも大森の落語家さんです）
〇入場料　無料（展示・落語ともに）

～平和寄席～

４月 14 日（日）
14：00 ～ 15：00（開場 13：30）
◆定員　先着順　40 名
◆会場　こらぼ大森内
　大森西特別出張所大会議室
◆申込　①名前　②電話番号
③申込人数を下記へお願いします
※締切　４月８日（月）
電話・FAX　03-5753-6560
E メール cbc10286@nifty.com

〇主　催　大田区区民活動支援施設大森
　　こらぼ大森
〇協　力　大田区立郷土博物館、昭和館、
　　開桜小学校

発行者　齋藤 十四男
発行日　2024 年４月１日

大田区区民活動支援施設大森　こらぼ大森
住　所　〒143-0015　大田区大森西 2-16-2
電　話　03-5753-6616
ＵＲＬ　http://collabo-ohmori.com/

ホームページ QR コード▶

2024 春

おいでよ collabo こらぼ

季刊誌 vol.50

こらぼ大森で開催された講座の紹介

子育てのポイントを伝える講座など…… 2P
「団体の継承と活動の活性化」講座・マーケティング講座 …… 3P
こらぼ de アート展開催ほか …… 4P
分身ロボット × ボッチャ体験を実施 …… 5P
能登半島地震ボランティア報告 …… 6P
防災ワークショップを開催 …… 7P
お知らせ　平和祈念写真展≪未来に伝える昭和≫…… 8P

発行　大田区区民活動支援施設大森　こらぼ大森

こらぼ大森で開催された講座の紹介

子育てのポイントを伝える講座

12 月 6 日（水）、こらぼ大森で「子育てのポイント」講座が開催されました。この講座は、地域力応援基金助成事業として「ハートリレープロジェクトおおた」が主催し開催したもので、講師として NPO 法人あかしろきいろの相澤あゆみ氏が登壇しました。子育てデビューしたての父親・母親が、子育て支援・発達支援のプロから、子どもの自己肯定感を上げる幼児期の関わり方などについて学びました。

講師からのメッセージ

NPO 法人あかしろきいろ
相澤あゆみ氏

まず大前提として、一番大切なのはお母さんは笑顔でいることです。お母さんの笑顔で子どもの情緒が安定します。そして良くも悪くも子どもは「親の背中を見て」育ちます。

" 自分が言われて嫌なことは言わない " こと。そして、お母さんが周りの人に「ありがとう」といつも言っていると、自然と子どもも「ありがとう」と言うようになります。子育てをそれほど難しく考えなくてもいいのです。

講演を聞いたあるお母さんから「自分は親からそのように育ててもらっていないから、どうすればいいかわからない。どうしたらいいか。」と質問がありました。そんなに複雑に考えなくてもいいのです。「自分が親からされて嫌だったことはやらない」、逆に「親にして欲しかったことは何だったのか」を少し考えながら子どもに接してみてください。

ある時、レジで並んでいたら、少し前に並んでいた小さな女の子が店員さんに「これお願いします」と言っていました。あの場面での子どもは、親に言われて言っているのではなく、普段親が言っているのを見ていて、自然と子どもが言うようになっているのです。子は親の鏡とも言います。25 年後のその子の姿は、今のあなたの姿です。

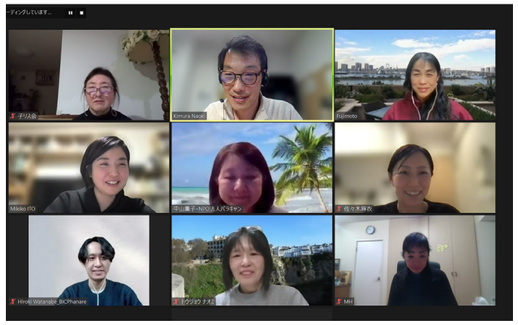
「団体の継承と活動の活性化」につながる講座

3 月 2 日（土）こらぼ大森で、ＮＰＯ法人フュージョン長池理事長の田所喬氏をお招きし、レベルアップ講座 「団体の継承と活動の活性化」を開催しました。
当日、区民活動や町会・自治会活動に関わる参加者が集まるなか、田所氏からは、20 年以上の歴史を持つＮＰＯ法人を受け継いだ経験から、創業者からの世代交代が実現した経緯についてお話頂きました。参加者の皆さんは、田所氏が示した「活動のあり方は継承し、やり方は継承者に自由度を持たせる」などの継承のポイントについて熱心に聞き入っていました。また、当日は、大田区のＮＰＯ法人あかしろきいろの団体創設者である相澤氏と、相澤氏から活動を引き継いだ上出氏（団体理事長）からも経験談が話され、団体を継承したメンバーの関係の在り方について、参加者で共有することができました。

※ＮＰＯ法人フュージョン長池は、八王子で地域住民と共に、人と自然に寄り添うまちづくりを行う団体です。

マーケティング講座

1 月 17 日（水）、講師に伊藤美希子氏（㈱ BICP hanare 代表取締役）を迎え、NPO 活動に役立つマーケティング入門講座が開催されました。当日、オンラインで行われた講座には、大田区内外から参加者が集まり、企業と非営利法人、双方で活躍する伊藤氏の話を聞きました。自分たちが提供できる価値と顧客が望む価値を重ねることを重視するマーケティングの考え方を学び、参加者の皆さんからは「自分の活動にも活かせそうで勉強になった」などと感想が寄せられました。

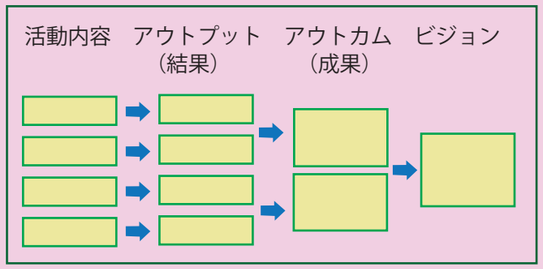


ロジックモデル講座

2 月 17 日（土）こらぼ大森で、大田区区民活動団体レベルアップ講座の一環として、㈱ホワイトボックスの上村光治氏を迎え、ロジックモデル講座が開催されました。
当日は区民活動団体４団体の関係者が参加するなか、ことばの羅列だけでは伝わりにくいミッション、ビジョン、活動内容などについて、ロジックツリーを用いて分かりやすく、論理的に図式化するトレーニングを行いました。

ロジックモデルって何？

ロジックモデルは、活動や施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したものです。右図のようなツリー構造のものが代表的で、活動内容やその結果、成果を書く事で表現されます。



ロジックツリーの概念図

第 10 回 こらぼ de アート展が開催されました！

色とりどりの作品群、今年もこらぼ大森周辺地域の方々をはじめ、多くの方からの出展がありました。種々の布手芸品、絵画、書道、折り紙等々素材も様々、出展者も小学校 1 年生のお子さんからご年配の方まで幅広い年齢層からの参加がありました。会場では、あちらこちらから、「素晴らしい！」「どう作ったんだろう」の声が上がるなど、こらぼ大森がアートでいっぱいの 3 日間となりました。

今年で 10 回目、年を追うごとに催しを通じて、地域の輪が拡がり盛んになっています。（作品は表紙の写真でも紹介しています）

打楽器コンサートグループ
「あしあと」がコンサートを開催！

3 月 7 日（木）こらぼ大森で NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあとによるコンサートが行われました。「あしあと」は、「見て楽しい・聴いて楽しい・楽器を触って一緒に演奏」をモットーに打楽器を使って、音楽を提供している団体です。当日は、地域の方々でいっぱいになった「いろいろルーム」で、木琴、鉄琴、太鼓などを使って、カーペンターズの曲や日本の歌メドレーなど、様々な音楽を奏でていただきました。

演奏する「あしあと」の皆さん

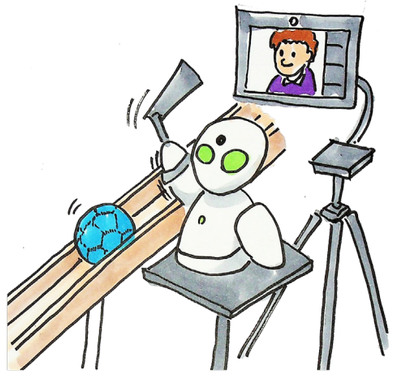
着物の生地で作られたプログラム冊子

分身ロボット OriHime も活躍

こらぼ de アート展当日は、案内役として分身ロボット OriHime も登場しました。会場前でロボットが見学者に声をかけると、多くの来場者が足を止めて会話を楽しみました。特に子どもたちは興味津々で、ロボットを囲み、「こっちの事が見えるの？」「何歳ですか？」などと質問を投げかけていました。

分身ロボット OriHime とは？

OriHime は、遠隔の場所から操縦して、コミュニケーションを行うロボットです。主に、外出が困難な方々の就労、通学をサポートするツールとして活躍しています。



分身ロボット × ボッチャ体験を実施

12 月 16 日 (土)、こらぼ大森で分身ロボット OriHime を使ったボッチャ体験が行われました。この活動は、ロボットや通信機器を使って、障がいの有無に関わらずボッチャを楽しむことを目指す社会実験として行われました。(主催：NPO 法人こらぼ大森、協力：どこでもオリヒメ)

当日は、審判員（協力：大田区スポーツ推進委員）のもと、現地参加者・オンライン参加者が協力してチームをつくり、味方のボールを的球に近づけられるか競い合いました。障がいのある方々は、オンラインで分身ロボット OriHime を操作しながら、ランプ（勾配具）からボールを転がしましたが、「現地参加者のみんなと一体となって楽しむことができた」と感想を述べていました。

分身ロボットで遠隔からボッチャをする様子

現地のコートに集まった皆さん

能登半島地震ボランティア報告

1月1日(月)に発生した令和6年能登半島地震の被災者の方々へ心よりお見舞い申し上げます。本号では、こらぼ大森情報交流室職員が、2月10日（土）～12日（月）にかけて被災地でのボランティア活動を行う機会があり、NPO等の市民活動の重要性を再認識致しましたので報告致します。

NPOが実現したボランティア受入れ

発災後1か月を経過した被災地は、特に奥能登地域で、建物倒壊や道路寸断などの被害が大きく、断水が続いていたこともあり、被災地域の社会福祉協議会等によるボランティアセンターの立上げが困難な状況が見られました。今回のボランティア活動受け入れは、震災後いち早く羽咋（はくい）市に支援拠点を築き、支援活動を行っていた、災害支援団体「NPO法人愛知ネット」のコーディネートで実現しました。また、実施された炊き出し活動は、「NPO法人愛知ネット」と連携した企業や地元の障がい者団体（就労支援団体）の食材提供により実現しています。

ボランティア活動を行った地域

地域の状況と炊き出し活動の実施

集まったボランティアは、2月10日(土)から活動を開始し、志賀町や内灘町などで炊き出し活動を行いました。志賀町では、富来（とぎ）地区は家屋倒壊や道路ひび割れ、陥没の被害があり、2月10日現在も断水が続いていました。炊き出しを行った避難所（志賀町富来活性化センター）には高齢者なども多く避難をしていましたが、提供された暖かい食事が喜ばれました。

在宅避難者の間でLINEも活用

内灘町には在宅避難者の方々が多くいらっしゃいましたが、液状化による断水の影響で避難生活の苦労が続いていました。炊き出し場所の内灘町立西荒屋小学校校には、町内放送と町内会用のLINEで炊き出しの情報を知り人々が集まってきました。特に子育て世帯の方々はLINEによる情報共有を利用していて、災害時のICT活用の重要性を感じさせられました。

人が集まる炊き出し活動の意義

今回の炊き出しで提供できたのは、長い避難生活の中でのささやかな一食ですが、現地の様子からはそれ以上の意義が見られました。炊き出しは、断水期間中の久々の暖かい食事と近所の人たちとの団らんの時間であり、地域の人たちとの情報交換の場ともなっていました。また、炊き出しを実現するために、市民団体や支援者、地域の自治会などがお互いに知り合い、連携し、情報交換を行うことは、これから長期にわたり展開していく支援活動の中で再び活かされていくものと考えられます。

在宅避難を想定した備えの重要性

今回、在宅避難を想定した備えの重要性も再確認できました。災害時に備え、地震のゆれや浸水による住宅の被害に気を付けながら、ライフライン（電気、ガス、上下水道）が止まっても暮らせる準備をすることが重要です。特に、上下水道の被害は、復旧に時間がかかるため、断水への備えを十分に行う必要があることがわかりました。

液状化による被害が大きい内灘町

内灘町での炊き出しの様子

防災ワークショップを開催

水のたりない生活に備える7つのワザを伝える

3月10日（日）こらぼ大森で、講師に防災まちづくり研究会のみなさんを迎え、在宅避難ワークショップ「水のたりない生活に備える7つのワザ」を開催しました。当日は、子育て世帯を含む多世代が参加者し、水のたりない生活を想定した、水の運搬、凝固剤を使った段ボールトイレの利用、節水クッキング（パスタと蒸しパンづくり）などを体験しました。参加者からも好評で、「自分で実践できたことがよかった」などの感想をいただきました。

講師：防災まちづくり研究会の皆さん

節水クッキングの様子

簡易トイレの体験の様子